



RDA講習会 in Kyoto

英米目録規則 (Anglo-American Cataloguing Rules) は「AACR3」に改訂されるのではなく、新たなFRBR, FRAD, FRSADの概念モデルを基に、2010年にまったく新しい枠組みのRDA (Resource Description & Access) として刊行されました。すでにLC (Library of Congress), National Library of Medicine, British Library, Library & Archives Canada, Deutsche Nationalbibliothek, National Library of Australiaでは2013年4月からRDA準拠に変わっています。最近ではNACSIS-CATの参照ファイルでも見かけることが増えてきました。国立国会図書館も、RDAに対応した書誌データ作成基準を定めると公表しています (国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開(2013)『NDL書誌情報ニュースレター』2013年2号)。

国際標準の動向として、図書館員はRDAとはどのようなものかを知っておく必要があります。しかし、AACRやNCRとは構成が異なり、予備知識なく理解するのは容易ではありません。

IAAL (大学図書館支援機構) では、2012年12月から2013年5月にかけて、図書館現場の目録実務担当者向けのRDA講習会を東京で開催し、毎回全国から100人以上の参加者がありました。東京以外での開催の要望も多く寄せられ、大学図書館問題研究会京都支部との共催で「RDA講習会in京都」を実施する運びとなりました。3回連続講座として東京で実施した内容を2回にして行います。

第1回
2014/02/22 (土)
プロローグ：RDAはどのようなものか
RDAをカタログガーの視点で読む①関連の記録

第2回
2014/03/09 (日)
RDAをカタログガーの視点で読む②属性の記録

時間
13:30-16:30
場所
**京都市国際交流会館
第1・2会議室**
(市営地下鉄東西線蹴上駅5分)

参加費(各回)
**会員：2,000円
一般：3,000円**
*会員とは、
大図研会員、および
IAAL会員です。

定員(66名)
定員になり次第、締切らせていただきます。

申込み方法

下記の大図研京都支部のホームページからお申込みください。

<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20140222.html>

主催：大学図書館問題研究会京都支部 E-mail: kyoto@daitoken.com

共催：NPO法人大学図書館支援機構 〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-19-12 6F TEL: 03-5961-3401 E-mail: info@iaal.jp

ホームページ：www.iaal.jp/rda/kyoto/kyotoinfo.html